

◆第 406 回研究例会報告◆

日 時：2025 年 8 月 23 日（土）13：00～16：00

テーマ：デジタル出版ツール Romancer（ロマンサー）の学校図書館や授業での活用を模索してみよう

発表者：有山裕美子氏（滋賀文教短期大学 国文学科 准教授）・黒田暁氏（株式会社ボイジャー 企画部）

参加者：16 名

まず、有山氏より「学校教育における電子書籍づくりの可能性」と題して、学校だからできる、「読む」から「つくる」の取り組みについて、工学院大学附属中学校などでの実践に基づいた報告があった。電子だからこそできることはないか、電子図書館の「読む」以外の活用方法を模索し、情報の受け手としてだけでなく、送り手として育てるために電子書籍をつくるという活動にたどり着いたとのことである。

次に、電子書籍づくりのワークショップにボイジャーが提供する「Romancer」をプラットフォームとして活用するに先立って、そのノウハウのレクチャーを黒田氏から行ってもらった。リフロー型と固定レイアウトのメリット・デメリット、NR エディター・word・PDF での作り方の違い、カッコいい作品をつくるコツなど、知らないことを学ぶ楽しみで、参加者みな前のめりで聞いていた。

実際の電子書籍づくりは、提供された素材やそれぞれが持ってきたものなどを使い、各々作業をした。有山・黒田両氏に個別に丁寧にフォローしてもらいながら、楽しく作業ができた。思いのほか簡単に電子書籍がつくれることで、いろいろな図書館活動や授業に活用できるのではと、質疑応答も時間いっぱい続いた。

アンケートでは「とても有意義で楽しい時間でし

た。子どもたちと何ができるか、夢が広がります。」「今後の希望、可能性が見えてきました。使いこなせるように頑張ります。」「とてもエキサイティングでワクワクする内容でした。これをいい感じで生徒の学習に絡めることができれば、本当に成果物を情報としてアーカイブしたりと、今までの在り方がガラッと変わると思います。」「電子書籍と PDF の違いがわかってよかったです。」「実際に手を動かして入力していくのが楽しかったです。」という感想が寄せられ、満足度の高い例会であったと思われる。

参加者のほとんどが学校図書館関係者で、非会員が過半数という内訳だった。「夏休みなので参加しやすかったです。」という声も寄せられており、学校関係者向けの例会としては時期を得ていたと思われる。

（文責：狩野ゆき）